

研究種別	一般研究	
研究課題名	鶏肉副産物の高付加価値化技術の開発	
研究期間	平成30年度 ~ 令和2年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.2
[コメント] 亜麻仁油脂肪酸カルシウム添加により、n6/n3比率の低い、ヒトの健康にも配慮した白肝を作出する技術を確立したことを評価する。これまで利用が積極的でなかった内臓の付加価値を高めた。 一方、生産者としては、白肝を作出する飼料を給与した際の正肉への影響についても必要な情報である。なので、本成果を公表する際にはご留意頂きたい。 加えて、白肝はテーブルミートとしてはあまり馴染みのないと思われる。消費者に白肝の美味しさを理解頂く活動も必要と思われる。これについては、行政とも連携を図って欲しい。 本研究では白肝に焦点をあてたが、亜麻仁油のようなn3系脂肪酸に富む飼料を給与した家禽、家畜の生産物には付加価値があると考え。鶏卵や豚肉への応用を含め、今後の展開に期待したい。		

研究種別	重点化研究	
研究課題名	牛体外受精卵の高度生産技術の開発	
研究期間	平成30年度 ~ 令和2年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	4.6
[コメント] 国の施策にあるように、和牛の生産拡大の基礎となるのは、増頭・増産を可能にする繁殖技術である。本課題はそれに該当し、廃用牛の卵巣を遺伝資源として再利用可能であることを示した点、培養技術を改良し複数の受精卵を同時に処理することによる省力化を確立したこと等、技術の確立を図ったことは高く評価できる。 本技術の着実な県内普及を図り、実際に山梨県内でどのくらい増頭・増産に寄与できたか、事後の追跡が重要と考える。甲州牛で増頭・増産の成功例を山梨モデルとして、全国的な普及・啓蒙を図って欲しい。		

研究種別	一般研究	
研究課題名	哺育管理の違いが乳用雌子牛の発育等に及ぼす影響	
研究期間	平成30年度 ~ 令和2年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.8
[コメント] 哺乳から離乳時の子牛の栄養管理は、その後の生産性にも影響することから重要な課題である。 本研究では5年の研究期間を通じて、哺乳期間に少量でも乾草を給与することがルーメン機能の発達には重要であることを示したことが大きい。それに加え、クラフトパルプ、酪酸ナトリウム、MCTの給与効果を調べ、社会実装の可能性まで行き着いたことは評価できる。 哺乳から離乳時の子牛の栄養管理は生涯生産性に係わることから、高栄養早期離乳をおこなった場合のルーメンの状態と、その後の生産性への追跡調査データが欲しいところ。こうした追跡は公設試でしかできないので、データ収集をお願いしたい。		

研究種別	重点化研究	
研究課題名	特産飼料の給与等によるプレミアム豚肉の開発	
研究期間	平成 30 年度 ~ 令和 2 年度	
	評価項目	平均点
1	研究目標の達成度	3.6
[コメント] 地域の未利用資源を飼料化し、新たなブランド豚肉を作出する挑戦的な研究である。 摘果モモはシアン化合物の問題もあり飼料化が難しかったことは残念だが、ドングリ給与によりオレイン酸が高く官能評価でも違いがある豚肉が生産可能であることを示したことは大きい。 飼料原料の安定供給には難があるが、豚熱終息後は放牧と組み合わせた省力化と高品質豚肉の作出に期待したい。本成果は、その際の基礎的データとなると考える。		